

Citation: Curioni C, André C, Veras R. Weight reduction for primary prevention of stroke in adults with overweight or obesity. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2006, Issue 4. Art. No.: CD006062. DOI: 10.1002/14651858.CD006062.pub2.

CRG名: Cochrane Metabolic and Endocrine Disorders

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 24 August 2006

Clib issue No.; N/U: 2006 issue 4; New review

背景: 肥満は、脳卒中など多くの疾患の罹患増加を伴う罹患率の高い世界的な慢性疾患とみなされている。脳卒中は先進国では三番目に多い死亡原因であり、重度の長期障害の主要な原因である。過体重または肥満と脳卒中の因果関係は不明であり、初発脳卒中の予防(一次予防)における肥満治療の役割を明らかにする決定的な研究はない。脳卒中の蔓延とこの疾患の医療経済的に膨大なコストを考えると、減量そのものが脳卒中の発病率へおよぼす影響を明らかにすることは重要である。

目的: 過体重または肥満の人に対する減量が及ぼす脳卒中発病率への影響を評価する。

検索戦略: MEDLINE、EMBASE、コクラン・ライブラリ、LILACS、進行中の試験のデータベースおよび文献リストを用いて該当する試験を同定した。最後の検索は2006年4月に実施した。

選択基準: 過体重または肥満の人において減量のためのあらゆる介入(単独または併用)をプラセボまたは無介入と比較しているランダム化比較試験。

データ収集と分析: 本レビューに含める試験は文献中に見つからなかった。

主な結果: 現在報告すべき結果はない。

レビューアの結論: 肥満は脳卒中のリスク上昇につながるとわれ、体重を減少させれば脳卒中発症低下へとつながる可能性が示唆されてきた。しかしながら、この仮説はランダム化比較臨床試験の結果による強力な科学的エビデンスに基づいてはいない。このシステマティックなレビューから、過体重または肥満の人において減量が及ぼす脳卒中の発症への影響を評価するためのよくデザインされ、適切な検出力のある多施設ランダム化比較試験が緊急に必要なことが確認された。

翻訳公開日: 06年12月27日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。